

県外派遣報告書

- 1、大会名：第77回南九州四県対抗バスケットボール選手権大会
- 2、派遣期間：令和5年4月22日（土）～4月23日（日）
- 3、派遣者：山中萌衣
- 4、担当ゲーム：22日：女子1位パート 慶誠対延岡学園
女子1位パート 延岡学園対大分
23日：女子1位パート 慶誠対大分

5、内容

【PGCの内容】

- ・ メカニクスの確認（エリア、アングル、エッジの分担、Cサイドでのプレッシャーが起きた時、など）
- ・ クロック管理に関して
- ・ 新ルールの確認
- ・ チームに対するスカウティング

女子 慶誠対延岡学園

CC：中屋敷（大分県）、U1：山中、U2：坂之上（鹿児島県）

慶誠高校に留学生がおり、その守り方がポイントになる試合だった。そこに関しては、クルーで共有をしながら、判定をすることができた。個人的にマージナルな笛が多かったと感じた。その原因として、視野の外から入ってくるプレーヤーへの対応が遅れていたり、プレーに対して近すぎたりということが挙げられる。

留学生のボールが叩きつけてたプレーに対して、止める笛を入れたが、一番近くにいたレフリーに任せ過ぎてしまった。ゲームの中で一番大きな事だったので、寄ってコミュニケーションを取るべきであった。

女子：延岡学園対大分

試合を通して、大きなことが起きることもなく進行した試合だった。その中で、UFになりうるケースに関して、もっと時間をかけて答えを出すべきだった。映像で確認すると、UF(C4)がベターなケースだったので、クルー3人で話してもよかったと感じた。

女子：慶誠対大分

試合前のPGCでのチームのスカウティングがはまった試合展開であった。そのため、ローテーションなどもわかりやすく、プライマリレフリーがしっかりと判定につなげることができた。

慶誠高校の留学生が自分より小さいDefの守り方にストレスを溜める場面があったり、そのようなコミュニケーションがあったが、クルーで共有しながら、リーガル・イリーガルをクルーで判定していくことができた。だが、その中で、留学生がゴール下でターンショットを打つ際にDefが倒れてしまうプレーがあった。結果として、LがDefの引っかけた手のファウルをコールしたが、映像で確認すると、留学生の肘が先にヒットしているようにも見え、Offファウルの方が納得できるのではないかと感じた。この時、私はCであり、Cサイドにターンしたプレーであったがそこまでの確認ができていなかった。急に自分のプライマリになるケースに対応できていないことが反省点である。ポイントになるマッチアップだったので、逃したくないケースであった。

6、所感

今回の大会でもたくさんの課題が見つかりました。まずは、判定力の部分でただ鳴らすだけでなく、もっとプレーを見てマージナルな部分を減らしていく必要があると感じました。また、自分のプライマリに入ってくるプレーに対して対応するためにも、もっと全体を把握する力をつけたり、そのためのポジションアジャストをもっとしたりする必要があることなどが課題として残りました。このような課題を一つずつ改善して、自分のものにしていけるように精進していきます。

派遣いただきました、鹿児島県バスケットボール協会をはじめ、原田審判長、関係者各位に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上、ご報告とさせていただきます。